

現状

■スポーツ情報発信ウェブサイト「こうちスポーツNAVI」

- 主な機能
 - ①「スポーツイベント・大会・教室」を探す
 - ②「サークル・クラブ・チーム」を探す
 - ③「スポーツ施設」を探す
 - ④「ボランティア情報」を探す
 - ⑤大会・イベント等の申込み機能（R3年度追加予定）
 - ⑥動画掲載機能（ " ）
 - ⑦アンケートページ作成機能（ " ）
 - ⑧イベントカレンダー機能（ " ）
- 利用状況
 - (1)サイトに情報を掲載できる機関・団体(管理団体143団体)
 - 市町村／競技団体／レクリエーション団体／
 - 総合型地域スポーツクラブ／その他スポーツ関係団体
 - (2)サイトを実際に活用している管理団体数
 - R元年度33団体→R2年度13団体→R3年度10団体
 - (3)サイトへのアクセス数（月平均のページビュー数）
 - R元年度4,715→R2年度5,308→R3年度9,897

■スポーツ課SNSの活用

- スポーツ課SNS
 - ・LINE、インスタグラム、Facebook
 - ・Twitter（高知龍馬マラソン）
- 各SNSによる発信内容
 - (1)LINE
 - 聖火リレーの取組（聖火トーチ展示、聖火リレー日程、公式HP）のお知らせ
 - (2)インスタグラム、Facebook
 - （インスタグラムからFacebookに連動）
 - ※インスタグラムのフォロワー数:812人
 - ・オリンピック関連情報
 - ・スポーツ教室の開催及び参加者募集情報
 - ・県関係選手の活躍記事
 - ・地域におけるスポーツ関連活動の記事
 - ・高知県スポーツ科学センター関連記事
 - (3)高知龍馬マラソンTwitter
 - ※フォロワー数:224人
 - ・高知龍馬マラソンのランナー募集
 - ・関連イベントの情報 など

■スポーツ活動におけるリモートの活用

- 【整備物品】 PC、モニター、カメラ、スピーカー、マイク、モバイルルーター、プロジェクター、会議用ソフト等
- 【設置施設】 県立スポーツ施設、市町村スポーツ施設等
- <主な取組事例>
 - 1.みる
 - 少年柔道大会のYouTubeライブ配信
 - コロナ禍で大会会場での応援ができない中、県民武道館に配置しているリモート機器を活用し大会をYouTubeでライブ配信
 - 2.する
 - 障がい者支援施設へのリモートで体操教室の配信
 - コロナ禍で実施できる運動が限られている中、土佐市立市民体育館と障害者支援施設をリモートでつなぎ「3B体操」を配信
 - 3.ささえる
 - SSCサポートスタッフ研修のリモート開催
 - コロナ禍で集合研修の実施が難しい中、リモートでSSCサポートスタッフに対する研修を実施

課題

- こうちスポーツNAVI及びスポーツ課SNSの利用が十分に伸びていない。
- 現在活用しているスポーツ関連のデジタル技術は、NAVIによるイベント等の申込み機能の充実、SSCによるリモートを活用したサポートに限られている。
- よりスポーツに親しみやすくするため、また、効率よくスポーツに取り組めるようにするためには、多様なスポーツ場面において、さらなるデジタル化を検討する必要がある。

専門部会での主な意見

強化の方向性

■デジタル技術の効果的な活用 <主な活用例（案）>

スポーツを「みる」

- 既存システムの活用促進
 - ・県立施設予約システム「こうちでスポーツ!!」と「こうちスポーツNAVI」を統合
- リモートを活用したイベントや大会の配信の拡充
 - ・コロナ禍において無観客で大会等が開催された場合でも、関係者が視聴できるようにYouTubeで配信

スポーツを「する」

- リモートやVR、ARを活用した取組の拡充
 - ・リモートによるスポーツ活動の普及及び効果的な活用の検討・実施
 - ・実際に体を動かして行うeスポーツの実施

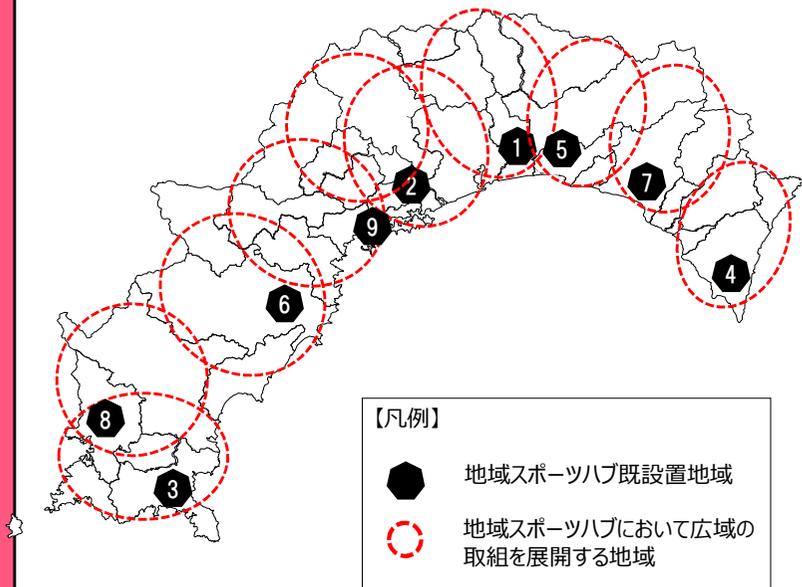
スポーツを「ささえる」

- スポーツ医科学面におけるデジタル化
 - ・競技の特性を踏まえたデータの効果的な活用
 - ・新たな機器の導入（運動中の心拍数や位置情報を把握できる機器〔ウェアラブルの活用〕、ボールの回転数を計測する機器 等）
- 高知龍馬マラソンにおけるデジタル技術の活用
 - ・エントリー機能を簡潔に行うとともに健康チェックシートをオンラインで収集できるアプリの活用
 - ・企業と連携したランニングセミナーにおけるウェアラブル機器の活用
- 自然環境を生かしたスポーツツーリズムの取組におけるプラットフォームのデジタル化
 - ・県内のスポーツアクティビティを可視化したプラットフォームの構築（HP上でマップ化）
 - ・プラットフォーム上で事業者情報やガイドができる人材情報、宿泊・飲食・文化・歴史等の周辺情報などが随時更新できる機能を付加

現状

■地域スポーツハブの取組の現状

○地域スポーツハブの設置状況 (R3.7月末現在)



○各地域スポーツハブの取組実績 (R3年度は予定を含む)

NO.	設置年度	地域スポーツハブ拠点がある市町(核となる団体)	取組内容ごとの活動累積数〔()はR3年度の取組数〕							広域の取組(R3のみ)	自立した取組
			子どもの活動	大人の活動	子どもから高齢者まで	障害者スポーツ	部活動の受け皿	リモートの活動	スポーツツーリズム		
1	H30	南国市(まほろばクラブ南国)	3 (0)	5 (1)	12 (1)	1 (1)	3 (1)	1 (1)	4 (4)	(1)	1
2	H30	土佐市(総合クラブとさ)	7 (0)	12 (1)	8 (0)	1 (1)	3 (1)	1 (1)	0	(1)	1
3	H30	土佐清水市(スポーツクラブスクラム)	5 (0)	9 (0)	18 (2)	1 (1)	3 (1)	1 (1)	0	(0)	2
4	R1	室戸市(むろとスポーツクラブ)	1 (0)	2 (0)	5 (0)	0	1 (0)	0	0	(0)	0
5	R1	香南市(こうなんスポーツクラブ)	3 (1)	9 (0)	2 (1)	1 (0)	0	0	8 (1)	(1)	0
6	R2	四万十町(くぼかわスポーツクラブ)	1 (1)	1 (0)	3 (1)	0	0	0	1 (1)	(1)	0
7	R2	安芸市(来楽部あつきいーな)	2 (0)	7 (6)	0	3 (3)	2 (0)	0	0	(0)	0
8	R2	宿毛市(宿毛市体育協会)	3 (0)	2 (1)	2 (2)	0	0	0	1 (1)	(0)	0
9	R3	須崎市(すさきスポーツ倶楽部)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0	0	1 (1)	0	(1)	0

課題

- 各地域スポーツハブにおいて、地域のニーズや課題を捉え、新たなスポーツサービスの提供が一定進んできているが、地域スポーツハブが拠点としている市町を中心とした取組が多く、広域の取組が十分に行われていない。
- 広域の関係者から継続してニーズや課題を捉えることが十分にできていない。
- 障害者スポーツやスポーツツーリズムに関する取組が少ない。
- 新たに立ち上げた取り組みの定着率が低く、継続した取組につなげていく必要がある。

専門部会での
主な意見

強化の方向性

■多様なニーズを捉えた取り組みの拡充

- 広域のニーズや課題の把握
- ニーズや課題ごとに取組のエリアや連携先を整理して展開
- 地域スポーツコーディネーター情報交換会及び研修会の充実

■県の助成終了後も継続した活動ができる体制づくり

- 総合型地域スポーツクラブ等への支援
- 市町村行政との連携体制づくり
- 広域で連携したりモートによる取組の促進

■民間団体や企業等が核となる新たなスポーツ推進体制との連携

- 関係者をつなぎスポーツを通して地域の活性化を目指すスポーツコミッション(民間団体や企業等で設立を準備中)
スポーツ振興に資する取組に加え、「スポーツツーリズム」や「地域スポーツ大会・イベントの開催」、「スポーツ大会の誘致」などスポーツと地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することで、まちづくりや地域活性化につなげる取組を展開。
- 総合型地域スポーツクラブの自立的な運営の促進に向けた支援を行う中間支援組織(中間支援組織:高知県スポーツ協会)
高知県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を高知県スポーツ協会の組織内組織とし、総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度の運用を通じて、総合型地域スポーツクラブの質的充実に向けた取組を展開。

■高知県スポーツ科学センター（SSC）の取組

○運営体制

SSC職員：有資格職員1名、専門職員4名
サポートチーム（外部協力スタッフ）
コンディショニング26名、栄養21名、メンタル1名、
映像分析3名

○利用状況（R1～R3）

項目	利用者数（人） ※R3は7月末時点		
	R1	R2	R3
一般体力測定	138	55	10
専門体力測定	514	466	99
コンディショニングサポート	461	713	234
栄養サポート	168	62	29
メンタルサポート	41	106	2
動作・映像分析サポート	75	169	41
全体	1,397	1,571	415

・スポーツ医科学(測定・サポート)を活用する競技団体(種目)
(R3目標:30団体)
R1:11団体→R2:11団体→R3:6団体
(全高知以外の競技団体(種目)を含む)

○競技団体別利用状況（全高知チームの競技）

競技団体	専門体力測定 利用者数（人）			各種サポート 利用者数（人）		
	R1	R2	R3	R1	R2	R3
ソフトボール	105	42	8	78	40	21
サッカー	89	75	26	65	127	78
柔道	27	20	5	0	0	0
剣道	56	13	2	44	20	5
レスリング	4	0	1	60	30	0
卓球	42	0	0	0	0	0
カヌー	25	42	0	141	105	0
飛込	5	21	14	28	153	119
水球	-	12	0	-	52	29
ラグビー	17	9	0	53	0	0
陸上	9	8	0	103	132	39
バドミントン	16	17	0	70	73	0
ライフル射撃	2	6	0	2	0	4
バスケットボール	-	0	0	-	41	0
ソフトテニス	-	4	0	-	114	0
バレーボール	-	-	0	-	-	0
合計	397	269	56	644	887	295

○研修・支援事業（R2年度実績）

・競技団体の指導者・医科学担当者の研修：2回
・地域の指導者・スポーツ拠点のスタッフの研修：5回
・SSCサポートスタッフ研修：8回
※R3年度は16回の研修を実施予定

○利用競技団体からの主な意見

- ・データの活用をさらに行う必要がある。
- ・映像サポートを有効に活用したい。
- ・メンタルサポート重要性を強く感じる。
- ・測定を定期的に行うことにあまり必要性を感じていない。
- ・トレーニングフォームを教えて欲しい。
- ・栄養サポートは保護者にもお願いしたい。
- ・動作分析はデータの蓄積が必要。
- ・測定を受けた後、各所属チームでのトレーニングが重要。
- ・映像分析については、モデルケースを示してもらいたい。

○SSC推進協議会委員からの主な意見

※SSC推進協議会は有識者や競技団体代表者等で構成し、SSCの事業改善や適切な管理運営のために提案等を行う。

- ・積極的に活用を望む競技団体には、より競技に特化した測定や個別のサポートを行ってみてはどうか。
- ・選手にとってはトレーニングの結果として測定データが向上するとモチベーションに繋がる。
- ・競技団体としてはSSCでの測定データのためのフィードバックではなく、データを基にした活用方法等の助言等が欲しい。
- ・体力測定の人数を絞るか、測定種目を絞り合宿等に組み込む等の工夫が必要ではないか。
- ・指導者の意識が低いことは課題。競技者と指導者が同じものを共有する事が重要。
- ・SSCスタッフの増員や質の向上は急務だと感じる。そのための研修等への参加が必要ではないか。競技団体の指導者育成についてもSSCが中心となって進めていくことが必要ではないか。

- 利用者数全体は増加傾向にあるが、スポーツ医科学の活用の定着が一部の競技に限られているとともに、活用している団体においても、頻度や内容が限定的。
 - ・必要性が十分に理解されていない
 - ・競技の特性に応じた具体的な活用方法がわからない
- スポーツ医科学の活用拡大のためには、SSCの体制強化が必要。

■スポーツ医科学のさらなる効果的な活用

- 競技団体におけるスポーツ医科学活用モデル事業の実施
- 競技ごとのスポーツ医科学活用事例の紹介（SSCスタッフ→競技団体へ紹介）
- ウェアラブル機器の活用

■高知県スポーツ科学センターによる研修内容の充実

- 競技団体、学校運動部活動、スポーツ団体と連携したニーズに応じた研修会の実施
- リモートによる研修会の拡充

■高知県スポーツ科学センターの体制強化

- サポート体制の充実
- SSCスタッフの資格取得促進
- SSCスタッフの育成プログラムの作成・実施
- 日本スポーツ振興センターとの連携強化（連携事業の実施）

■オリンピック事前合宿（大会直前合宿）

○チェコ共和国：7月11日～30日／4競技45名／陸上14名（春野陸上競技場等）、水泳14名（くろしおアリーナ）、カヌー13名（須崎市カヌー場）、ボート4名（須崎市カヌー場）
○シンガポール共和国：7月11日～20日／1競技13名／バドミントン13名（南国市立スポーツセンター）

■国別の交流の実績

○チェコ共和国

交流の主体	時期	場所	主な内容	主な成果
チェコオリンピック委員会及び競技団体 須崎市 県カヌー協会	2017～2021（カヌー） 2019（陸上） 2021（陸上・水泳・カヌー・ボート）	須崎市浦ノ内カヌー場 春野陸上競技場 くろしおアリーナ	合宿期間中に練習の見学や一流競技者等から指導を受ける機会を設けるなどスポーツ交流を実施	・競技力の向上 ・異文化理解の促進 ・スポーツツーリズムの推進
チェコカヌー連盟 県カヌー協会	2018（カヌー） 2019（カヌー）	須崎市浦ノ内カヌー場 チェコ共和国	ジュニア選手の合同練習	・競技力の向上 ・異文化理解の促進 ★県カヌー協会とチェコカヌー連盟がスポーツ交流協定を締結
チェコソフトボール協会 県ソフトボール協会	2018～2019（ソフトボール）	春野ソフトボール場	男子ソフトボールU19の合宿期間中に、県内高校生チーム等と強化練習試合を実施	・競技力の向上 ・異文化理解の促進 ★県ソフトボール協会とチェコソフトボール協会がスポーツ交流協定を締結予定

○シンガポール共和国

交流の主体	時期	場所	主な内容	主な成果
スポーツシンガポール 県バドミントン協会 県水泳連盟 県卓球協会	2019（バドミントン・水泳） 2021（バドミントン）	南国市スポーツセンター 県民体育館 くろしおアリーナ 南国市立スポーツセンター	合宿期間中に練習の見学や一流競技者等から指導を受ける機会を設けるなどスポーツ交流を実施	・競技力の向上 ・異文化理解の促進 ★事前合宿（直前合宿）実施の協定書による交流活動の継続
シンガポールスポーツスクール 県教育委員会 県バドミントン協会 県卓球協会	2017～2019（バドミントン・卓球）	南国市立スポーツセンター 県民体育館	シンガポールスポーツスクールとの相互交流	・競技力の向上 ・異文化理解の促進 ★県教委とシンガポールスポーツスクールがスポーツ交流協定を締結

○オランダ

交流の主体	時期	場所	主な内容	主な成果
オランダ自転車関係者 宿毛市	2017～2019（サイクリング）	宿毛市（県西部地区）	自転車イベントへのオランダ自転車協会関係者の招へい 中学生等との交流	・サイクリングの普及 ・地域の活性化 ・異文化理解の促進
オランダサッカー関係者 県サッカー協会	2018（サッカー）	春野球技場	オランダプロサッカー指導者を招へいた指導者研修会の開催	・指導者の育成 ・競技力の向上

○オーストラリア

交流の主体	時期	場所	主な内容	主な成果
ソフトボール クイーンズランド 県ソフトボール協会 高知丸の内高校	2019（ソフトボール）	春野ソフトボール場	オーストラリアソフトボールチームとの強化練習試合 学校訪問による文化交流	・競技力の向上 ・異文化理解の促進 ★県ソフトボール協会とソフトボールクイーンズランドがスポーツ交流協定を締結

○トンガ

交流の主体	時期	場所	主な内容	主な成果
トンガコミュニティ関係者 県ラグビー協会	2019～2020（ラグビー）	春野陸上競技場	ラグビーWCの事前キャンプの実施 ラグビークリニックの開催	・ラグビーの普及 ・競技力向上 ・スポーツツーリズムの推進

○ハンガリー

交流の主体	時期	場所	主な内容	主な成果
ハンガリーカヌー関係者 土佐町・本山町・須崎市 嶺北高校	2018～2019（カヌー）	嶺北地区	土佐町在住ハンガリー出身者（メダリスト）による中高生への指導 ハンガリージュニア選手の県内合宿	・競技力の向上 ・スポーツツーリズムの推進

■オリンピック・パラリンピック競技

オリンピック競技		パラリンピック競技	
1	水泳	1	アーチェリー
2	アーチェリー	2	★バドミントン
3	陸上	3	ボッチャ
4	バドミントン	4	カヌー
5	★野球・ソフト	5	自転車（※3）
6	バスケットボール（※1）	6	馬術
7	ボクシング	7	5人制サッカー
8	カヌー	8	ゴールボール
9	自転車（※2）	9	柔道
10	馬術	10	陸上
11	フェンシング	11	パワーリフティング
12	サッカー	12	水泳
13	ゴルフ	13	ボート
14	体操	14	射撃
15	ハンドボール	15	シッティングバレー
16	ホッケー	16	卓球
17	柔道	17	★テコンドー
18	★空手	18	トライアスロン
19	近代五種	19	車いすバスケット
20	ボート	20	車いすフェンシング
21	ラグビー	21	車いすラグビー
22	セーリング	22	車いすテニス
23	射撃		
24	★スケートボード		★は今回の大会で新たに実施された競技
27	★スノーケリング		
28	★サーフィン		
29	卓球		（※）は新種目がある競技 ※1:3×3 ※2:BMXフリースタイル ※3:自転車タイムトライアル
30	テコンドー		
31	テニス		
32	トライアスロン		
33	バレーボール		

- 事前合宿やホストタウン事業において実施した交流などの取組、また、東京オリンピック・パラリンピックの成果を今後のスポーツ振興につなげることが必要。
- 各交流を継続・発展させるためには、財源の確保やサポートする人材の確保など、各交流の主体を中心とした関係機関・団体の連携が必要。

■スポーツ交流及びスポーツを通じた多分野の交流の促進

- 市町村や競技団体が交流を継続し、さらに多様な交流につなげるための支援を検討
- スポーツ合宿の受け入れや相互交流
- 県内スポーツ大会・イベント等への選手やチームの招致
- 関係国への定期的な情報発信・情報共有
- スポーツ医学面での交流
- 地域スポーツクラブとの交流

■今後の大規模イベント等を捉えた本県のPR強化

- 今後の大規模イベント等の機会を捉えて関係国へ本県のPRを行うことなどにより、オリンピック・パラリンピックで関係した国やチーム等との今後の多様な交流につなげる
＜今後の主な大規模イベント＞
* ワールドマスターズゲームズ2021関西：R4年(2022年)5月13日～5月29日 * 関西万博：R7年(2025年)4月13日～10月13日

■新たなスポーツへの対応

- 東京オリンピックから加わり、注目された新競技やパラリンピック競技について、県内の競技人口等を把握したうえで今後の対応を検討